



## カニやイカなどに、血液はあるの

### 動物は、たいてい血液をもっている

動物は、みんな呼吸をし、食べ物を食べ、ふんをして生きています。そして、呼吸で体に取り入れた酸素や、食べ物からとった栄養分を全身に配るために、血液や、血液を送り出すポンプのはたらきをする心臓が、たいていの動物に必要なになります。

ですから、海にすむカイ、カニ、イカなどや、こん虫のミツバチ、地面の下のミミズなども、血液や心臓をもっています。

でも、カニやイカを料理するとき、魚や肉を切るときのように、血が出てきませんね。虫をつぶしても、真っ赤な血が出てくることは、ほとんどありません。なぜかというと、血が赤い色をしているのは、ほとんど背骨がある動物だけといえるからです。カニやイカにも血液はあるけど、目立たない色をしているため気がつかないのです。

### 赤い血液は、背骨のある動物だけ

血液が赤い色をしているのは、赤血球の中のヘモグロビンという色素のせいです。ヘモグロビンは、酸素とくっつきやすい性質をもち、血液の中で酸素を運ぶ役目をしています。

エビやカニの仲間や、カイやイカやタコなどのなん体動物の仲間の血液には、ヘモグロビンのかわりにヘモシアニンという、うすい青色の色素が入っているものもいます。また、緑色の色素をもつ血液の動物もいます。

背骨のない動物の仲間の中でも、アカガイやシャミセンガイ、ミミズ、ゴカイなどのように、ヘモグロビンに似た赤い色素をもつ血液のものも、少しいます。

(監修・安部 義孝)

